

第9章 活用

1. 活用の方向性

八上城跡は、複数の登山ルートが設定され、地域の方々によって維持管理の活動が行われるなど、身近に親しまれている山城跡である。一方丹波篠山市内の観光ルートは、篠山城跡を中心とした篠山伝統的建造物群保存地区などが中心となっており、観光客の多くは八上城跡まで訪れるに至っていない。このことは、八上城跡が有する本質的価値やその歴史的背景が十分に周知できていないことや、八上城跡への散策ルートが設定されていないことなどが要因と考えられる。

このような状況と第6章で明らかにした活用の現状と課題を踏まえて、第7章の基本方針の具体化を目指すために、活用の方向性と方法について以下に掲げる。

(1) 本質的価値の幅広い周知

丹波篠山市を代表する歴史文化資産として、地域のみならず市民や観光客が親しみを持てるように、積極的に八上城跡が有する本質的価値や丹波篠山市の歴史的背景の幅広い周知を図る。

(2) 地域資源としての活用

日本遺産『丹波篠山 デカンショ節－民謡に乗せて歌い継ぐ故郷の記憶』の構成文化財であり、地域の象徴である八上城跡において、郷土に対する誇りと愛着を寄せるにふさわしい活用を図る。

(3) 学校・社会教育資源としての活用

学校教育や社会教育において、八上城跡を中心とした歴史文化資産の積極的な活用を図ることで、幼少期から郷土の歴史文化遺産に触れ、また地域学習として八上城跡を中心とした歴史学習の機会を設けることで、次世代に地域の歴史文化遺産の継承を図る。

(4) 研究資源としての活用

大学や博物館等の研究機関、研究者、周辺自治体等との連携により、八上城跡の価値や歴史的背景等をより深く解明するための研究資源としての活用を図る。

(5) 関連する文化財や多様な歴史資産と一体となった観光資源としての活用

八上城跡と関連する山城や市内の歴史資産との連携をさらに進め、より幅広い地域振興や観光振興につながる活用につなげる。

2. 活用の方法

(1) 本質的価値の幅広い周知

- ・市の広報誌やホームページ等により、八上城跡の価値や歴史的背景について、積極的な周知を図る。より広域に発信するため、八上城跡に特化したホームページの開設等、インターネット上での情報発信を充実させる。
- ・広大に築かれた山城跡の全体像が理解できるような地形模型の展示、航空写真や3次元データを利用した遺跡立体図の公開を検討する。
- ・八上城跡への理解と普及を促進するため、観光協会や関連部局と連携し、市役所や公民館をはじめ、市内各所の歴史文化施設や観光案内所などに八上城跡に関するガイドンスコーナーの設置やパンフレットの配布などを行う。
- ・八上城跡への興味や関心を高めるため、八上城跡の価値や魅力、さらに調査研究の成果等を伝える刊行物を発行する。
- ・説明板やリーフレット等の刊行物は、幅広い年齢層を対象に写真やイラストなどを用い、子ども向けのパンフレットの作成も検討する。
- ・観光客等に八上城跡の存在や価値の周知を図るため、リーフレットを市内観光施設や鉄道駅等において配布するなど、関係機関と連携し取り組む。
- ・健常者のみならず多くの方々が八上城跡の歴史的環境を体感し、遺跡の本質的価値を理解するための手段として、VR(仮想現実)やAR(拡張現実)といったデジタル技術を利用し、「遺跡の見える化」について検討する。

なお、兵庫県西播磨県民局では、管内の山城などの史跡や歴史遺産を活用した「西播磨山城復活プロジェクト」に取り組んでいる。その一環として、山城のさらなる魅力向上を図り、往時の山城を体感できるようにスマートフォン等で閲覧できるARアプリを西播磨ツーリズム振興協議会が制作している。このアプリは兵庫県のホームページで入手できる。このような山城を対象としたARアプリの作成について、関係機関と連携し検討する。

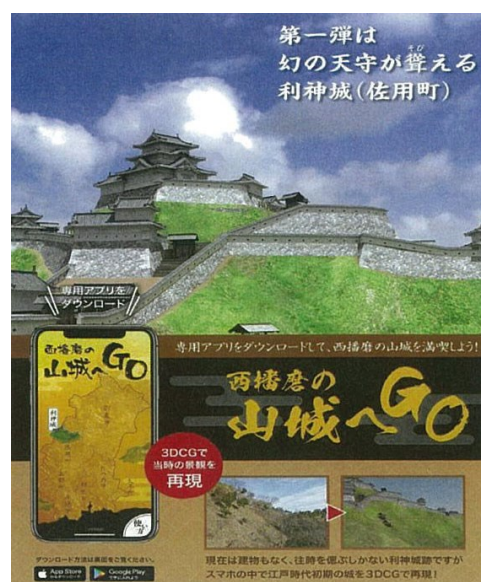


写真 9-1 ARアプリ
「西播磨の山城へGO」

城跡の幅広い周知の事例



烏帽子形城跡の紹介
「広報かわちながの(2021. 4月)」



米子城跡の紹介「広報よなご(2023. 8月)」



子ども向けパンフレットの参考例(史跡脇本城跡)



米子城跡ガイドブック(史跡米子城跡)



飛騨市山城マップ

(2) 地域資源としての活用

- ・地域活動団体等と連携して、主要な曲輪や登山道周辺などの草刈りや美化活動等をイベントとして開催し、その活動を通して八上城跡への愛着や関心を育てる。
- ・八上城跡では「高城山へ登ろう会」など、地域の歴史資産や豊かな自然環境を幅広く知ってもらうための活動が行われている。地域活動団体と連携することで、地域資源として幅広い史跡の活用を推進する。
- ・丹波篠山市では歴史文化まちづくりフォーラムを開催し、地域の歴史文化を活かしたまちづくりの展開を目指している。山城の保存活用に取り組む地域団体間の連携を図るため、令和7年1月に発足した「丹波篠山 山城ネットワーク」の連携を活かし、市内の山城群の一体的な活用を推進する。
- ・講座等の開催による学習機会を通じて、八上城跡の保護や価値の継承に関わる幅広い年代の人材育成を図る。

(3) 学校・社会教育における活用

- ・小、中学校などと連携した郷土学習の場としての活用を推進し、次世代を担う子どもたちに文化財の価値や魅力を伝える。八上小学校でおこなわれていた八上城跡での模擬合戦等の授業のように、市内の他の教育機関においても市内の山城について学習する機会を設ける。また、教員への研修機会を設けるなど、学校教育の中で八上城跡を活用する取り組みを行う。
- ・篠山城跡では、「丹波篠山お城子どもガイド」と称し、地元の篠山小学校の児童たちが篠山城跡でのガイドを実施している。このような取り組みを八上城跡での実施について検討する。
- ・学習教材として利用できる子ども向けのリーフレットや副読本の作成を行い、子どもたちが学びやすい環境を整え、地域の歴史文化遺産との触れ合いの機会を設ける。
- ・八上城跡の歴史的価値や魅力を市民や来訪者にわかりやすく伝えるための講座や勉強会を開催し、地域への愛着や誇りの醸成を図る。
- ・地域の語り部、ボランティアガイドの養成に努める。



写真 9-2 丹波篠山お城子どもガイド

【ご案内】
丹波篠山 お城子どもガイド 地域のこどもたちへのうれしあい
丹波篠山立篠山小学校の児童のこどもたちが篠山城大・
高城山について学習しました。こどもたちならではの発想で「篠山
城大発掘」をガイドし、みなさまを導く一歩おもしろいしま
す。一人でも多くの方の参加を待ちます。

日程：10月18日(水)13:40分開始
13:30分現地集合 終了予定時間15時
先着40名催し/申し込み締切：10月15日(日)
集合場所：篠山城跡二の丸跡
参加費：無料(入場料無料)

お申し込み先——篠山城大発掘 ご予約は
丹波篠山立篠山小学校 2F
TEL. 079-552-4500 FAX. 079-552-6618 **こちら→**

写真 9-3 丹波篠山お城子どもガイドの案内チラシ

学校・社会教育における活用事例



子どもガイドの実施(史跡河後森城跡)



子ども向けの読本(史跡烏帽子形城跡)

(4) 研究資源としての活用

- ・八上城跡やその歴史に関わる波多野氏と明智氏の攻防等をテーマに、大学や博物館等の研究機関、研究者、周辺自治体等との連携を図ることで調査研究を推進し、情報交換や交流を深める。
- ・調査研究の成果をシンポジウムや講演会等で発信し、八上城跡の価値や調査成果の普及啓発に努める。

(5) 関連する文化財や多様な歴史資産と一体となった観光資源としての活用

- ・丹波篠山市では、丹波篠山市の魅力を広く知ってもらうため、「丹波篠山ロマン街道」として、自然、歴史、町並みの地域資源を結ぶルートをもつマップにして紹介している。そのルートマップの1つである「戦国乱世の道」には、鎌倉時代から戦国時代にかけて築城された山城を紹介し、地域で語り継がれている山城の伝承を伝えている。また暮らしが息づく町並み景観を紹介する「町並み風景街道マップ」では、旧山陰街道に残る街道集落の町並みとして高城山の北側に位置する八上上・八上内が紹介され、歴史をしのばせる里として奥谷城(蕪丸)跡の山麓に位置する殿町の集落が紹介されている。



写真 9-4 丹波篠山ロマン街道 戦国乱世の道マップ



丹波篠山「町並み風景街道」

丹波篠山口マン街道

写真 9-5 丹波篠山口マン街道 町並み風景街道マップ



- ・篠山城跡や篠山伝統的建造物群保存地区を有する篠山城下町だけではなく、そこからさらに八上城跡を組み入れた観光案内ガイドツアーの実施や観光周遊ルートの設定、またそれに伴う案内サイン等の整備を行う。
- ・J R篠山口駅から八上城跡の最寄りのバス停である十兵衛茶屋停留所への便が少ないため、訪問するには自家用車の利用が多いので、土・日・祝日などのバスの増発など、交通体制の整備について関係機関と協議していく。
- ・J R篠山口駅や篠山城下町でレンタサイクルを利用できるが、J R篠山口駅から八上城跡まではやや距離があるため、安全で快適なサイクリングコースの設定や、サイクルポートの設定など回遊性の向上を図る。



参考事例：複数のサイクルポートで貸出返却が可能なシェアサイクル
(姫ちやり運営事務局：姫路市)